

# 入間市納税貯蓄組合長賞

税金と私達の暮らし

上藤沢中学校 三年 馬越 日菜乃

「税って何に使われているのだろうか。」

私が税に興味を持ったのはこの小さな疑問からでした。税金は私達の身近に存在しているということは知っているものの、具体的にどのようなものに使われているか、どのようにして私達の生活を支えてくれているのかはまだ知りません。税金は私達の生活にどう影響しているのでしょうか。

税は歴史の中で形を何度も変化させてきました。その理由は社会の変化によって、求められる税のあり方も変化していったからです。今から逆上ること約2300年前、弥生時代が日本の税のはじまりと言われており、魏志倭人伝に日本の税に関する最古の記録があります。卑弥呼が治める邪馬台国では、種もみや絹織物を貢ぎ物として納めていました。また、今から約1400年前の飛鳥時代に行われた大化の改新（645年）では、公地公民（土地や人民を国家のものとする）など、新しい政治の方針が示されました。701年に完成した大宝律令では、「租・調・庸」という税や労役をかける税の仕組みができました。租は男女の農民に課税され、税率は収穫の約3%でした。庸は都での労働（年間10日間）又は布を納める税、調は布や絹などの諸国の特産物を納める税だったようです。これらのことから、現代では当たり前前に「現金」で納めている税は

元々「現金」ではなく、布やお米などの商品や労役などによって代用されていたことが分かります。また、こんなにも前の時代から税は私達の生活に関わっているということが分かりました。では、現代ではどのような所に税金が使われているのでしょうか。身近なものと言えば学習に使う教材などです。公立の小・中学校の場合、教科書や教室にあるパソコン、実験器具や体育用具などに税金が使われています。また、私が驚いたのが公立の小・中学校の先生の給料にも、私達の両親が納めている税金が使われているということです。私達は両親が稼いでくれたお金でご飯を食べたり、自分の好きな物を買ったりしているのですが、私が思っていたよりもすぐ身近に税金が存在しているのだと知りました。学校以外にも、将来、私達の生活の役に立つようにと宇宙開発や科学技術の研究にも税金が使われています。そして、消費税や警察、ゴミ処理費用などの身近な公的サービスにも税金が使われています。つまり、税金がなくなってしまうと救急車を呼ぶだけで莫大な費用がかかったり、ゴミが町中に溢れかえったりしてしまうのです。だから税金は私達の生活に欠かせないと思います。

今まで私は消費税が上がるなどしたことから税金に対してあまり良い印象を持っていませんでした。しかし、今回税のことについて歴史をたどりながら知れたことで税の大切さを知れたし、税が私達の生活の「当たり前」を作っているのだと感じました。今後はもっと税に有難味を感じて生活していきます。